

ゴーヘッドス 速報

Goaheads

第40号 平成25年12月 7日

祐介守備で再三のピンチを救う！

勝利への道は確実なアウトの積み重ね！

	1	2	3	4	5	6	7	R
P	1	0	0	0	0	3		4
G	1	0	0	1	0	0		2



12/7(土)2013KSC決勝を三ツ池公園野球場に向き、PIOLAXと行った。このカードは、昨年の決勝と同一且つ馴染みのチームなので、今年はすっかり勝利し、有終の美を飾りたいと思うカードであった。先攻はPIOLAX、マウンドは、達脇が上がり09:10プレイボールとなった。最近の彼は、与四球の数が減ってきているので、その心配は無いと信じていたが、今日の立ち上がりは、その後を心配させる立ち上がりであった。先頭にストレートの四球を与え出塁を許し、更に次打者にも、2球続けてボール。結果この打者に、三塁線に高いバウンドの内野安打を打たれ、この打球で一塁走者は、二塁から三塁を狙ったが、何と二・三塁間で転ぶハブニングがあり、結局走者が入れ替わっただけとなった。が、次打者には中前にテキサスヒットで出塁、更に次打者には死球を与え、一死満塁と初回からピンチを迎えた。調子が良いのか？悪いのか？守備陣は分からないまま、次打者には、ストレートの四球を与え、押し出しによる失点をした。後続二打者はきっちり抑え、最少失点の1点に初回を抑えた。その裏の攻撃、先頭の哲也は四球を選択し出塁、その後次打者智の3球目の時に、二盗を決め、同点の走者をスコアリングポジションに進めた、智は、これまたライトの前にテキサスヒットで出塁し、無死一・三塁、初球智へは盗塁のサインが出されたが、まふんと投手の牽制に掛かり、一・二塁間でRPプレイに、これを状況判断良く、哲也がホームインし、同点とした。智は、結果的にアウト、後続二打者も凡打で倒れこの回を終えた。良く2回の攻防は、両投手が立ち直りを見せ共に0封、3回の相手攻撃でレフト山田が攻守を見せた。この回先頭打者にアンラッキーな安打で出塁を許し、その後二盗を決められ、またもスコアリングポジションに走者を進めた。その後四球も与えたが、何とか二死までこぎつけ、場面は二死一・二塁、相手打者の打球はレフト前に運ばれ、誰も失点を予感したが、山田が捕球後、速やかにホームに返球、若干バウンドが高く思ったが、センターの攻守に阻まれる。二死となる、打席に祐介への相手ベンチの作戦は敬遠による満塁策。そして打席には泉が入る。ストライクを先行されたが、その後ボールを良く見極め四球による押し出しを選び逆転に成功した。後続は三振に倒れ、その差は最少得点差の僅か1点、このまま最終回に入っていた。この回先頭打者に中前安打、次打者は送りバントで走者を進める作戦を相手ベンチを取った。が、この打球処理を誤り塁上に走者を溜める。後続は遊飛のIFで一死としたが、次打者の時にDSを決められ、共に走者が進塁、1点は仕方無いと覚悟したが、次打者の打球は遊ゴロ、これをホームに送球したが、三塁走者は慌てて三塁ベースに戻る。これが、アウトに出来ず傷口が広がった。そして次打者が放った打球が三塁後方で、安打に成り易い位置に上がる飛球、これをレフト祐介が懸命に捕球し二死とした。そして、先頭に帰り、今日1安打を放っている打者を遊ゴロに打ち取り、0に抑えたかと思ったが、何と送球エラーで同点にされ、後続にもレフト前に運ばれこの回3点を失点し逆転された。その裏何とかしたい我がチーム、一死から深沢が四球を選択し出塁、後続祐介も相手野手の失策により出塁、その後牽制悪送球と盗塁を絡め、一死二・三塁と同点チャンスを迎えたが、後続二打者が連続三振を喫しゲームセット、2年連続の2位に甘んじる結果となってしまった。振り返ってみると、敗因は、やはり6回の守備にある。勝利を得るためには、確実にアウトに出来るプレーをアウトにしなかった・出来なかった事が絶対的敗因。自分達のミスで勝利を逃した心のモヤモヤは残るものが大。よって、日ごろのアップを含めた、捕る・投げる・捕るを確実にこなす意識を改めて心に持つ事が重要である、という事を思い知らされた今日のゲームであった。